



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月4日

上場会社名 セーレン株式会社

上場取引所 東

コード番号 3569 URL <http://www.seiren.com>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼最高経営責任者 (氏名) 川田 達男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 経営企画本部長 (氏名) 川田 浩司

TEL 0776-35-2111

四半期報告書提出予定日 2020年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	91,112	0.2	7,952	2.0	8,514	9.0	6,094	11.0
2019年3月期第3四半期	90,897	7.5	8,110	0.8	9,352	11.3	6,848	22.8

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 4,565百万円 (9.2%) 2019年3月期第3四半期 5,028百万円 (27.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	109.38	108.52
2019年3月期第3四半期	114.66	113.90

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	126,147	76,906	60.0	1,364.51
2019年3月期	126,747	75,531	58.5	1,322.79

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 75,682百万円 2019年3月期 74,195百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		15.00		20.00	35.00
2020年3月期		18.00			
2020年3月期(予想)				18.00	36.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	120,000	2.2	10,500	0.8	11,000	5.0	7,800	5.2	140.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期3Q	64,633,646 株	2019年3月期	64,633,646 株
2020年3月期3Q	9,168,804 株	2019年3月期	8,543,353 株
2020年3月期3Q	55,720,053 株	2019年3月期3Q	59,728,477 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する説明.....	2
(2) 財政状態に関する説明.....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記.....	5
(1) 四半期連結貸借対照表.....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書.....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間.....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間.....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書.....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項.....	10
(継続企業の前提に関する注記).....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記).....	10
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動).....	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用).....	10
(セグメント情報等).....	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における経済環境は、当初、緩やかな回復基調で推移しましたが、後半に入り、米中貿易摩擦の深刻化にともなう中国経済を中心とした世界経済の減速、ならびに消費増税後の国内消費落ち込み等の影響を受け、国内製造業を中心に先行きの不透明感が一層強まっております。

そのような環境のなか、当社グループでは、「21世紀型企业への変革！」を中期方針に掲げ、変化し続ける経営環境においても常にお客様のニーズに応え、安定した収益確保と継続的な成長を果たすため、“新規事業の創出”と“グローバル事業の拡大”を柱とした事業戦略を推進しております。併せて、企業の潜在力である人材力、開発力、環境対応力を高める経営を継続し、企業体質の強化に取り組んでおります。

当第3四半期の連結業績は、売上高 911 億 12 百万円（前年同期比 0.2%増）、営業利益 79 億 52 百万円（同 2.0%減）、経常利益 85 億 14 百万円（同 9.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益 60 億 94 百万円（同 11.0%減）となりました。

[セグメント別の業績概況]

(車輛資材事業)

国内における新車販売は比較的堅調を維持し、引き続き“革を超える新素材”「クオーレ®」や夏冬快適素材「クオーレモジュレ®」などの高付加価値商品が順調に推移しましたが、海外生産比率の増加、ならびに販売車種の一部打ち切りや商品構成の変化により、国内事業全体では、前年同期比で減収・減益となりました。

海外では、米中貿易摩擦による米国の追加関税ならびに中国自動車販売市場の減速、さらに原材料価格高騰の影響を受け、厳しい経営環境となりました。一方で、前年度、大幅な受注増に対し生産能力の急拡大に取り組んでおりましたメキシコ工場において、課題であった生産効率と歩留まりの改善が進み、第1四半期より営業利益が黒字転換し、利益改善が図られました。海外事業全体では、市況の悪化を受け、前年同期比で僅かに売上高が減少したものの、営業利益は増益となりました。

当事業の売上高は 529 億 23 百万円（前年同期比 3.5%減）、営業利益 47 億 41 百万円（同 5.6%減）となりました。

(ハイファッション事業)

近年、アパレル業界や消費者の中で、売れ残り在庫の廃棄に対する問題意識が高まるなか、糸から縫製までのグループ一貫機能により、差別化商品を在庫レスで製造する独自のViscotecs®システムに注目が集まっております。このような社会環境のもと、ファッション向けBtoC事業においては、パーソナル試着で多様な消費者ニーズに対応し“あなただけの一着”をお届けする「Viscotecs make your brand®」の事業展開に先行費用を投じております。また、ファッション向けBtoB事業においても、同様のビジネスモデルでの店舗販売がスタートし、その後の店舗数拡大を経て順調に推移しております。

スポーツ向けBtoB事業においては、当社グループの差別化原系と加工技術を駆使した差別化素材の販売が堅調に推移しました。

しかしながら、アパレル市場全体は依然厳しい状況にあり、セグメント全体では、前年同期比で減収・減益となりました。

当事業の売上高は184億96百万円（前年同期比1.5%減）、営業利益は7億29百万円（同4.0%減）となりました。

(エレクトロニクス事業)

繊維と金属の複合化技術により差別化を高めた導電性素材「プラット®」は、付加価値を高めた部品化・製品化販売で、スマートフォンやゲーム機への採用拡大が進んでおります。また、ビスコテックス・システム販売事業では、システム本体およびサプライ商品が売上高を伸ばしました。KBセーレン(株)では、スーパー繊維「ゼクシオン®」の用途拡大が進みましたが、一方で米中貿易摩擦の影響により、

導電糸「ベルトロン®」や高性能ワイピングクロス「ザヴィーナ®」等の高付加価値商品の売上高が減少しました。また、繊維機械事業を行うセーレン電子(株)および世聯電子(蘇州)においても同様の影響を受け、売上高が減少しました。

なお、前連結会計年度末に連結子会社となったケイ・エス・ティ・ワールド(株)の業績が、新たに当エレクトロニクスセグメントに加わっております。

当事業の売上高は 82 億 51 百万円（前年同期比 34.9%増）、営業利益は 14 億 38 百万円（同 11.3%減）となりました。

（環境・生活資材事業）

新設住宅着工戸数が弱含みで推移するなか、当セグメント主力のハウジング資材事業では、優れた省エネ性能をもつ遮熱型ハウスラップ材や遮熱・高止水型ルーフィング材をはじめ、当社グループの差別化商品群が売上高を伸ばしました。

環境・土木分野では、独自の繊維技術により商品化した防草シート「グラスガード®」の販路拡大が進み、また、インテリア事業も売上高を伸ばしましたが、健康・介護事業およびオフィス事業において、一部商品の販売先での在庫調整があり、売上高が減少しました。

当事業の売上高は 63 億 62 百万円（前年同期比 5.6%増）、営業利益は 7 億 4 百万円（同 2.9%減）となりました。

（メディカル事業）

当社の独自技術で商品化した、繭から生まれた天然成分「ピュアセリシン TM」配合のコモエース化粧品は、自社サイトに加え、百貨店やセレクトショップなどの常設店舗での販売強化を進め、順調に売上高を伸ばしました。

卓越した消臭機能を持つアンダーウェアシリーズ「デオエスト®」は、顧客ニーズにマッチした新商品投入とプロモーションに注力し、販売拡大を進めております。

医療資材分野においては、KBセーレン(株)の「エспанシオーネ®」（特殊原糸）とグループ一貫機能を活かした高付加価値商品の顧客開発が進み販売先が拡大しましたが、薬価改定等の影響により一部の医療用資材において売上高の減少がありました。

当事業の売上高は 43 億 97 百万円（前年同期比 1.4%減）、営業利益は 11 億 9 百万円（同 29.8%増）となりました。

（その他の事業）

（株）ナゴヤセーレンの不動産賃貸管理事業やセーレン商事(株)の保険代理業が堅調に推移しました。

当事業の売上高は 6 億 81 百万円（前年同期比 1.3%減）、営業利益は 4 億 11 百万円（同 6.8%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第 3 四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して 5 億 99 百万円減少の 1,261 億 47 百万円となりました。流動資産は、受取手形及び売掛金やその他流動資産が減少した一方で現金及び預金が増加し、前連結会計年度末と比較して 4 億 6 百万円の増加となりました。固定資産は、主に海外子会社の財務諸表の換算レートが円高になったことなどにより、前連結会計年度末と比較して 10 億 5 百万円減少しました。負債の部は、借入金や支払手形及び買掛金の減少などにより、19 億 74 百万円減少し、492 億 40 百万円となりました。純資産は、自己株式の取得や為替換算調整勘定の変動がありました。利益剰余金の増加などにより、全体で 13 億 74 百万円増加し、769 億 6 百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、当第 3 四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は 148 億 21 百万円となり、前連結会計年度末より 26 億 33 百万円増加しました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、110 億 99 百万円の収入（前年第 3 四半期連結累計期間は 53 億 40 百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益 83 億 76 百万円、減価償却費 37 億 96 百万円などによるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、45億50百万円の支出（前年第3四半期連結累計期間は29億14百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出30億1百万円などによるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、35億21百万円の支出（前年第3四半期連結累計期間は39億80百万円の支出）となりました。これは主に、自己株式の取得による支出10億円、配当金の支払による支出21億30百万円などによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきまして、当第3四半期の業績および今後の見通しを勘案し、2019年11月5日に公表いたしました業績予想を上方修正しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,122	18,131
受取手形及び売掛金	29,405	27,831
有価証券	—	200
商品及び製品	11,749	10,840
仕掛品	2,935	3,098
原材料及び貯蔵品	5,394	5,229
その他	3,457	2,148
貸倒引当金	△11	△22
流動資産合計	67,052	67,459
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	22,340	21,344
機械装置及び運搬具（純額）	10,878	10,130
工具、器具及び備品（純額）	592	601
土地	11,709	11,887
リース資産	421	343
建設仮勘定	618	1,683
有形固定資産合計	46,560	45,991
無形固定資産		
のれん	1,286	1,167
その他	3,097	2,918
無形固定資産合計	4,383	4,086
投資その他の資産		
その他	8,931	8,790
貸倒引当金	△181	△179
投資その他の資産合計	8,750	8,610
固定資産合計	59,694	58,688
資産合計	126,747	126,147
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,804	16,614
短期借入金	3,256	1,632
未払法人税等	1,413	664
賞与引当金	1,329	483
その他	5,008	5,973
流動負債合計	28,812	25,369
固定負債		
長期借入金	14,075	15,561
役員退職慰労引当金	160	160
退職給付に係る負債	6,055	6,168
その他	2,110	1,980
固定負債合計	22,402	23,871
負債合計	51,215	49,240

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,520	17,520
資本剰余金	16,812	16,804
利益剰余金	49,610	53,597
自己株式	△10,615	△11,537
株主資本合計	73,327	76,385
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,086	2,299
為替換算調整勘定	△1,278	△3,011
退職給付に係る調整累計額	59	9
その他の包括利益累計額合計	867	△702
新株予約権	472	520
非支配株主持分	863	703
純資産合計	75,531	76,906
負債純資産合計	126,747	126,147

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	90,897	91,112
売上原価	67,162	66,773
売上総利益	23,734	24,338
販売費及び一般管理費	15,624	16,386
営業利益	8,110	7,952
営業外収益		
受取利息	159	168
受取配当金	121	126
為替差益	709	187
受取補償金	133	63
その他	196	124
営業外収益合計	1,319	670
営業外費用		
支払利息	50	69
その他	26	38
営業外費用合計	77	108
経常利益	9,352	8,514
特別利益		
固定資産売却益	4	24
投資有価証券売却益	341	—
特別利益合計	346	24
特別損失		
固定資産処分損	8	33
投資損失引当金繰入額	—	129
特別損失合計	8	162
税金等調整前四半期純利益	9,690	8,376
法人税等	2,817	2,265
四半期純利益	6,872	6,110
非支配株主に帰属する四半期純利益	24	15
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,848	6,094

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	6,872	6,110
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△316	212
為替換算調整勘定	△1,462	△1,706
退職給付に係る調整額	△65	△50
その他の包括利益合計	△1,844	△1,544
四半期包括利益	5,028	4,565
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,015	4,546
非支配株主に係る四半期包括利益	12	19

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	9,690	8,376
減価償却費	3,570	3,796
固定資産処分損益(△は益)	4	9
投資有価証券売却損益(△は益)	△341	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	10
投資損失引当金の増減額(△は減少)	—	129
賞与引当金の増減額(△は減少)	△710	△848
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	74	37
受取利息及び受取配当金	△280	△296
支払利息	50	69
為替差損益(△は益)	△466	△129
売上債権の増減額(△は増加)	△398	1,184
たな卸資産の増減額(△は増加)	△3,349	766
仕入債務の増減額(△は減少)	917	△1,049
未払消費税等の増減額(△は減少)	△118	106
その他	△732	1,525
小計	7,907	13,687
利息及び配当金の受取額	278	290
利息の支払額	△48	△69
法人税等の支払額	△2,796	△2,808
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,340	11,099
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,082	△3,001
有形固定資産の売却による収入	7	31
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△464	△330
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	1,265	200
定期預金の純増減額(△は増加)	550	△1,374
その他	△190	△74
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,914	△4,550
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	200	△950
長期借入れによる収入	—	2,600
長期借入金の返済による支出	△1,268	△1,786
自己株式の取得による支出	△1,043	△1,000
配当金の支払額	△1,793	△2,120
非支配株主への配当金の支払額	△74	△9
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△178
その他	—	△75
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,980	△3,521
現金及び現金同等物に係る換算差額	△398	△530
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,952	2,497
現金及び現金同等物の期首残高	13,222	12,187
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	136
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,269	14,821

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2018年11月8日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議し、取得株式数5,000,000株、総額10,000百万円を上限として2018年11月9日から2019年11月8日の期間で自己株式の取得を進めました。これにより当第3四半期連結累計期間において自己株式を686,900株取得しましたが、新株予約権の行使による自己株式の減少がありましたが、この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が921百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が11,537百万円となっております。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、前連結会計年度において非連結子会社であったKBセーレン・D T Y(株)および広州特拓汽車内飾有限公司(中国)は、重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車輛資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディ カル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	54,830	18,775	6,116	6,025	4,458	90,206	690	90,897	—	90,897
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	7	307	200	2	518	596	1,114	△1,114	—
計	54,830	18,782	6,424	6,225	4,461	90,724	1,286	92,011	△1,114	90,897
セグメント利益	5,023	759	1,621	725	854	8,985	441	9,426	△1,316	8,110

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車輛資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディ カル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	52,923	18,496	8,251	6,362	4,397	90,430	681	91,112	—	91,112
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	19	133	53	3	210	641	851	△851	—
計	52,923	18,515	8,385	6,416	4,401	90,641	1,322	91,963	△851	91,112
セグメント利益	4,741	729	1,438	704	1,109	8,723	411	9,134	△1,182	7,952

(注) 1. 各報告セグメント区分の主な製品等は下記のとおりであります。

- (1) 車輛資材……………自動車・鉄道車輛等内装材(シート材、エアバッグ、加飾部品)
- (2) ハイファッション……………各種衣料製品、衣料用繊維加工
- (3) エレクトロニクス……………導電性素材、工業用ワイピングクロス、ビスコテックス・システムおよびサブライ、電子機器、シリコンウエーハの成膜加工等
- (4) 環境・生活資材……………建築用資材、インテリア用資材、健康・介護商品、環境・土木資材
- (5) メディカル……………医療用資材、化粧品、水処理用資材

なお、「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソフトウェアの開発及び販売、保険代理業、人材派遣事業、不動産賃貸管理事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用(前第3四半期連結累計期間1,300百万円、当第3四半期連結累計期間1,239百万円)が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務部門などの管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。